

平成31年3月1日発行

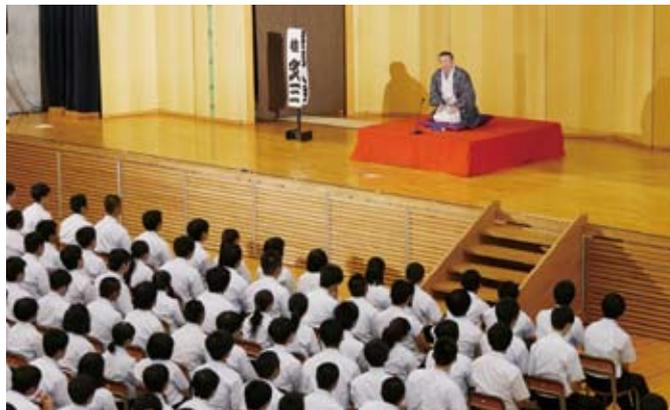
まなざし

横手清陵学院PTA会報

発行 秋田県立横手清陵学院中学校PTA
秋田県立横手清陵学院高等学校PTA
編集 横手清陵学院PTA広報部



合唱コンクール



芸術鑑賞



高校の授業見学

この学びの場を永続させるためには、学校の状況を理解した上で、学校を支援していく力、今の時代に求められる「PTA力」が必要なのではないでしょうか。これからは、一人ひとりが労を惜しまず学校と協働して、子どもたちの学校生活の向上につなげていきたいものです。

卒業を迎える皆さん
卒業おめでとうございます。
卒業生、在校生の皆さんにおかれましては、自らの夢を将来に望みながら、各分野にて数々の栄冠と功績を築かれておりました。嬉しいことです。



PTA活動を振り返って

高等学校PTA会長
高安秀人



中学校野球場でなべっこ

平成三十年年度のPTA活動も会員、役員の皆様の多大な御協力、そして御参加により無事終了できの事に感謝いたします。各専門部の皆様に携わっていただいた役員の皆様、本当にありがとうございました。

昨年十月には秋田市において第五十回日本PTA東北ブロック大会が開催されました。横手市PTA連合会は第四分科会として「健全な身体作りから考える健全育成」をテーマにパネルディスカッションを開催し、我々保護者にとつて、義務教育課程のみならず、子ども達の今後の人生にとつてもたいへん参考になりました。



一年を振り返って

中学校PTA会長
高橋恵里

今年一年、保護者の皆様には、PTA活動や部活動等を通して多大なる御支援、御協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、歴史の浅い本校において、このPTA会報「まなざし」はすでに四十四号を数えました。忙しい合間を縫い、年三回の発行ペーシスを十五年間続けてこられたのは、歴代編集委員の並々ならぬ熱意の賜であろうと思います。また同時に、子供の健やかな成長を願う親の思いが込められていることも決して見逃せません。



「まなざし」が担うもの

校長
信田正之



中学校修学旅行

3年B組 氏神萌子

十二月五日の午前六時、これから始まる修学旅行に胸を高鳴らせた三年生が出発式に臨みました。バスで北上駅まで移動、そこから新幹線に乗り換え、いざ東京駅へ。見慣れない東京の街並みを前に最初は国会議事堂に入りました。教科書でしか見たことのない衆議院本会議場の傍聴席に実際に座り、説明を聞きました。授業で習ったことを実物で見ることによって、公民の授業への理解・関心がさらに高まったのではないかと思います。

次に、劇団四季の「アラジン」を見に行きました。本格的なミュージカルの演出と歌声にみんな吸い寄せられるように見ていました。

劇団四季の会場を出た頃には外は薄暗くなっていました。ホテルのある横浜へ移動し夕食を食べるため中華街に行きました。ターニングテーブルを囲んで食べる夕食は、いつも



の給食とは違った雰囲気を感じることができたとともに思い出に残りました。

二日目 は、留学生との班別研修です。各班に一人、または二人の留学生がつき、一緒に日本の良いところや文化を学習しました。初めはこの国から来たのか、男性か女性かもわからず戸惑っていたけれども、どのグループもすぐに留学生となじみ、初対面や国の違いを感じることもなく、元気にホテルを出発しました。この班別研修で総合の「日本学」の学習はもちろん、留学生のおかげで英語でのコミュニケーションも学ぶことができました。

班ごとに舞浜駅へ行き、東京ディズニーシーへ入場。クリスマスシーズンと三十五周年が重なり、園内はとてもにぎわっていました。夜にはイルミネーションなどがひとときキラキラと輝き、夢の国を堪能することができました。

三日目は、鎌倉の大仏がある高徳院と鶴岡八幡宮に行きました。大きな大仏や鶴岡八幡宮にある、舞殿や源平池などバスガイドさんに説明していただいた場所が印象に残っています。

楽しい修学旅行もそろそろ終わり。鎌倉から上野までのバス内でふとみんなの方を見たらどっと疲れが出たのか、ほと

んどの人が寝ていました。そのくらい楽しい修学旅行になったのかなと思いい、修学旅行実行委員として嬉しくなりました。



今回の修学旅行を通して、みんなで協力することやルールを守ることなど、これから生活していくうえで大切なことを学ぶ良い機会になりました。修学旅行で経験したことをこれからの学校生活、高校生活にいかしていきたいと感じました。



修学旅行古今東西

「遠い記憶ゆえ 事実と反する場合があります」
あるかもしれません

懐かしの修学旅行について、保護者と先生方にご回答いただきました。地域が変わればその常識も変わるようです。

高校

【神奈川県立希望ヶ丘高校】
京都を拠点とした周辺の自由行動
(新幹線)

神戸の異人館で貸衣装を着て友達同士で写真撮影をしました。今で言う「盛装」加工技術など無い素人の写真でしたが、たいへん気に入って大事にしています。あとに何かのサービスで大きく引き延ばし、額装してもらったのが実家に残っているはず。恥ずかしいから見つけてかくなないと。

湯沢高校

自由行動で仲良しの友人と二人で宇治市へ行ったこと。伏見稲荷の鳥居にたどり着くまで、地域の方に道を尋ねながら歩きまわりました。普通の住宅街をただ歩くだけでも楽しかったけれど、地図の準備も下調べもしなかったことで、余計にドキドキして冒険感が増しました。

横手高校

京都・奈良・明日香村
(集約列車・東海道新幹線)
日本史選択クラスだったので、みんなお寺・仏像が好き。京都での班別行動ではタクシーをチャーター。北野天満宮、嵯峨野、嵐山、三十三間堂、祇園、銀閣、詩仙堂と京都を一周しました。圧巻だったのは妙心寺法堂の天井に描かれた狩野探幽筆の八方にらみの龍。今でも京都へ行くたびに会いに行っています。

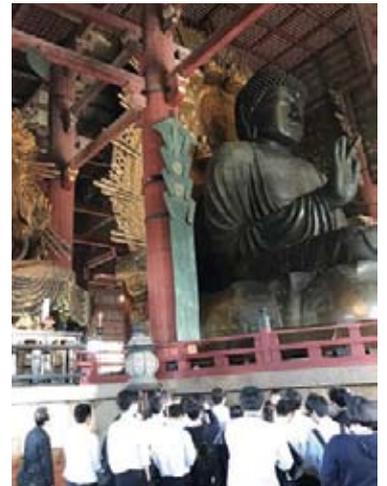
秋田高校

京都・奈良(集約列車 羽越線経由)
清水寺で、当時ファンになったばかりのロックバンドのメンバーに会ったこと、縁結びの石のところで撮影をしていて、

高校修学旅行

2年1組 松本志帆

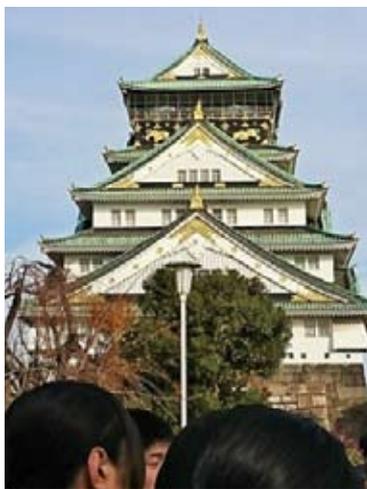
十二月二日七時、私たちの修学旅行は幕を開けた。秋田空港から羽田空港まで飛んだあと、伊丹空港に降り立った。そこから京都駅に向かうと、たくさんの地元の大生が私たちを歓迎してくれた。



それぞれのグループに分かれて向かった先は清水寺。歴史やお寺に全く興味の無い私すら引き込んでしまうほどの美しさに驚きを隠せなかった。その日の夜、私たちは修学旅行に対する高揚感から、なかなか眠ることができなかった。



修学旅行二日目は班別自主研修を行った。私たちの班は金閣寺、四条河原町を訪れた。金閣寺では例年よりも遅れた紅葉と金閣との絶妙な掛け合いを見ることができた。四条河原町では街のあちこちから聞こえてくる関西弁に胸を躍らせながら、班員各々お目当ての店を回り歩いた。



人生で最後の修学旅行はあっけなく終わってしまったが、この四日間は生涯忘れられないものとなるだろう。最高の修学旅行にしてくれた引率の先生方、ガイドさん、二年生的小伙伴们に、本当に感謝の気持ちでいっぱい이다。

中学校

〔若手県胆沢町立小山中学校〕

東京・千葉（新幹線・バス）
あこがれの東京に行けることがとても嬉しくて、見るものが新鮮でした。人の多さに圧倒されました。東京ディズニーランドでは開園五周年でいろいろなサブライズがあり、とても楽しい一日を過ごすことができました。

〔吉田中学校〕

北海道（JR青函トンネル、フェリー）
自由行動で時計台へ行ったり写真を撮り、札幌味噌ラーメンを食べました。観光地を楽しむだけでなく、横断歩道が広く長いことなどでもワクワクして、はしゃいだかわい記憶があります。

〔鳳中学校〕

北海道 函館・洞爺・札幌
（集約列車・青函連絡船・バス）
写真撮影が得意だったので、修学旅行後の報告集に使う写真の担当になりました。函館の夜景の撮影のため、邪魔になるのを覚悟で三脚を持っていき、十秒間の露出とクロスフィルターの使用で、絵はがきのような写真が撮れました。

〔雄物川中学校〕

東京（新幹線）
移動中の新幹線の中が急に騒がしくなりました。何だろうと思っていたら、中西圭三さんがホームにいて、みんな写真を撮りだしたのを覚えてます。東京ディズニーランドを満喫してきました。

〔湯沢市立雄勝中学校〕

北海道（フェリー・JR青函トンネル）
札幌大通公園での自由行動。地下街で買い物をして、地上に出たら迷ってしまいました。集合時間に大幅に遅れて集合場所へ。危うくバスに置いて行かれるところでした。そういえば行きのフェリー乗り場で木刀を買って、修学旅行中ずっとそれを持っていて移動していた友人がいたなあ…。

ホストファミリーとは

中2・中3保護者 金 沢 真由美

昨初夏、我が家は6週間のホストファミリーを経験しました。やってきたのはアメリカ・カリフォルニア在住の17歳、イザベラ・オスグッドさん。愛称はベラ。ベラはとてもオープンで楽観的な女の子で、すぐに我が家の暮らしに慣れてくれました。共働きであり、夫は週のほとんどを深夜に帰宅するような生活です。

中学生の娘2人は放課後や夏休みもほぼ毎日が部活。小学生の末っ子も習い事。ベラには娘と同じように家の鍵を渡し、通学や放課後の過ごし方も自力で工夫してもらいました。それはまさにファミリーの一員。

意識したのは普通であること。横手という地域での一般家庭の暮らしです。それこそ、ベラが10代にホームステイでこの横手に来た事の意義を考えると、経験すべきことだと思うのです。

さて、国や言語は違えど年齢の近い女の子たちの話題は共通。友達や学校、ファッションや音楽、恋！娘たちはあつという間に壁を越え、違いを認めてそれでも同じことを感じ取り、友情を育んだのでした。



メカトロ部の活動を見て

高2保護者 佐藤 光司

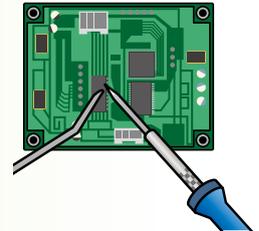
早いもので、息子のメカトロ部での生活も2年が過ぎようとしています。

小さな頃から電気で動く物に興味をもち、電化製品の分解や、工作・改造をして遊んでいましたが、その延長でメカトロ部に入部し大会や地域活動に参加しているのを見ると、経験を生かしてるなあと感じます。

大会には何度か足を運び応援する事ができましたが、ロボット競技大会の観戦は特に楽しいものでした。課題をクリアするために考え込まれた、各高校それぞれのアイデア・機構。課題へのアプローチの方法もさまざまでした。横手清陵学院高校メカトロ部のロボットに、息子のアイデアも採用されていると先生から聞き、部の力になっているのを嬉しく思いました。

遅くまで試行錯誤して作られたメカトロ部のロボットは、稼働の安定感、操縦技術共に完成度が高く、見事に県大会で優勝する事ができました。

今年は3年生になり後輩達への技術・ノウハウなどの引き継ぎを行っていく事になると思いますが、残り少ない部活動を悔いなく楽しんで欲しいと思います。



第32回 「青春回顧録」

PTA会員の方からご自身の学生時代をテーマに一筆頂きました。

↑自分の青春時代と比べてみて下さい。

アナログ時代のグローバルO・H

中学生の頃、海外の放送を受信するBC L (Broadcasting Listeners) に凝っていた。世界各国の放送を短波が受信できるラジオで聴き、受信報告書を送る。認められれば受信証明書(ペリカード)が放送局から送られてくる。日本語放送だけでなく様々な言語の放送の受信に熱中した。小六から中二まで新聞配達をやっていた。貯めたお金でスカイセンサー5900という受信機を購入した。遠距離の受信ができるのは電離層が形成される夜間。真夜中から明け方が狙い目だ。目覚ましをセットし、何回も挑戦した。やっとアメリカの局が受信できたと思った瞬間、某国の妨害電波(ジャミング)にかき消されてしまった。中学生ながら、冷戦中の国際情勢の複雑さを感じた。地球儀を見ながら世界を駆け巡る電波に思いをはせた。自分で出した国際郵便が海外の放送局に送られ、ペリカードが家のポストに届く。世界と自分がつながっていることを実感した。

インターネットですぐに海外の情報にアクセスできる現在、中高生にとって「世界IIパソコン・スマホの画面」になってはいないだろうか。世界と自分の繋がりをアナログで、もっとリアルに感じてほしいものだ。



あとがき

花見月を迎え、花の便りが聞こえてきますが、横手はまだ雪の中。しかし、着実に春に向かってあゆみを進めています。

お陰様で、会報「まなざし」も今年度最終号となりました。これまで取材や寄稿に御協力いただいた、先生、生徒ならびに保護者の皆様に感謝申し上げます。

「まなざし」は、その時々学校の話題や行事、生徒の体験談や思い、PTA活動など幅広く取り上げ情報発信を致しました。皆様は、家では見せない生徒の姿に驚かれたりしたことと思います。このように「まなざし」は、学校と家庭を繋ぐ役割ももっています。今後ともご協力の程、よろしくお願い致します。

最後になりますが、卒業を迎えられる高校3年生の皆様、おめでとございます。学舎は、部活は、友達はどうだったでしょうか？良い思い出、残念な思い出、両方あるのは当然の事です。それを糧に新たな道に進んでいただきたいと思えます。



清陵ホームページ



広報部メールアドレス